

審議会会議録

会議名称	平成27年度 第2回伊達市まち・ひと・しごと創生有識者会議		
議 題	議事 (1) 協議事項 ①伊達市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン 骨子（案2）について ②市民アンケート調査結果概要について ③総合戦略 骨子（案）検討シート		
開催日時	平成27年6月26日（金）18:30～20:10		
場 所	伊達市役所 2階会議室A・B		
出席委員	石井吉春 委員、樽見弘紀 委員、渡邊源之 委員、宇佐美雅昭 委員、池田茂樹 委員、大矢大介 委員、的場重一 委員、毛利元幸 委員、川村 守 委員、進藤 慎 委員、影山吉則 委員、杉原 茂 委員、館崎雄二 委員、栗山潤一 委員、木村秀雄 委員、佐野真三 委員、小畑次男 委員、矢野ゆうき 委員、尾川圭延 委員（計19名）		
	所管部課名	企画財政部企画課	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者人数	1名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開 会（事務局：企画課長）</p> <p>2. 前回欠席委員自己紹介</p> <p>3. 議 事</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①伊達市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン 骨子（案2）について</p> <p>【事務局より説明】</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p>■座長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、どこの市町村も社会増についてきちんと押さえてこなかったところがあるが、伊達市の場合はアウトラインが見えるところまで充実してきたかと思う。 ・社会減はみられるものの、全体として伊達市は悪くない状況だと思う。 ・若い人が出て行っているのは、主要産業である農業の後継者等の担い手になっていないということではないか。 ・女性が流出していないのは、福祉関係の雇用があるためと思われる。 ・一般的には「女性の流出が激しい中でどう抑えるか」ということが課題だが、伊達市の場合はその議論はまだしなくて良いと思う。 ・強みと弱みについてはいろいろ出してもらった。地方創生の観点からは、強みをどう伸ばすか、弱みをどう転換するか、これらがこれからの戦略を考えていく上でのキーワードとなる。委員の皆さんにここの意見をいただきながら整理ができると、より戦略に繋がるのではないか。 			

□委員

- ・資料P12の弱みの部分で、人口関連では医療福祉産業従事者が多いことが弱みとされ、一方で、産業分野では医療・福祉分野での従事者数の不足が弱みとされているが、これはどう解釈すべきか。

□委員

- ・医療福祉産業従事者が多いことは弱みなのだろうか。

■座長

- ・人口面の弱みとしては、医療福祉産業従事者の中に非正規雇用が多い点や低所得者が多いという点、産業分野では医療・福祉分野の従事者数が充足していないという点が弱みと解釈されるだろう。
- ・出生率を向上させるためには、女性の所得を安定化させるということになると思うので、ここでは弱みになるのではないかという考えで出されている。
- ・農業の後継者の転換はどうか。

□委員

- ・専業農家は250戸ぐらいで、うち、後継者がいるのは120戸ぐらいだろう。単独でやっている人をみるともっと少なくなるかもしれない。
- ・他地域から入ってくる人もいるが、伊達市は土地の値段が高く、畑作は難しいので野菜づくりから入るが、そうすると初期費用で1,000万円はかかる。資金調達が難しいところから入るので、長続きしなかったというケースも多かった。
- ・市の協力を得ながらハウス栽培をやっているが、もう少し時間がかかる。
- ・実際に新規就農で入って食べていけている人もおり、技術が伴えば食べていくことは可能だが、その技術の習得が難しい。

□委員

- ・北海道の農家全体でいうと、後継者がいるのは1/3以下。特に稲作は少ない。酪農や園芸については比較的后継者がいる。
- ・弱みの中に『「食」の選択肢が少ない』というのがあるが、伊達は選択肢がたくさんあるように思う。これはどういう意味か。

■座長

- ・加工品が少なく、それを提供する飲食店も少ないという意味だろう。これらは工夫の余地があるのではないか。

□委員

- ・弱みの中に「未婚率が高い」とあるが、これは男性と女性のどちらが高いか？

■座長

- ・男性の方が未婚率が高いが、絶対数としては女性の方が多いと思われる。
- ・出生率と結婚は密接な関係があることから、未婚率のデータを掲げている。

②市民アンケート調査結果概要について

【事務局より説明】

【質疑・意見交換】

□委員

- ・P11の各設問は、20代、30代に特化した分析をして頂きたい。

■座長

- ・今回提示したアンケート集計は速報値であり、詳細な分析までは提示していない。今後、ご指摘のような年代別クロス集計等も行い、最終的な集計結果を提示する。
- ・回答者の5割の人が伊達市以外で生まれた人だという結果であるが、この割合は多いのではないか。伊達市は予想以上に人の流動性が高いまちだと言えるかもしれない。

□委員

- ・引っ越ししてきた理由、生活環境上の理由の中身まではわからないものか？

●事務局

- ・質問の項目が限定されているため、それ以上のことはこのアンケート結果としては把握できない。

■座長

- ・年齢や職業構造にもよるのではないか。
- ・ある程度質的に整理していくことも必要だろう。

□委員

- ・アンケートの間3（世帯人員）の見方がよくわからない。
- ・世帯人員を男性と女性に分けて表示しているが、ここでいう性別は何を意味しているのか？

●事務局

- ・集計の仕方がわかりづらかったため、改善する。

③総合戦略骨子（案）検討シート

【事務局より説明】

【質疑・意見交換】

■座長

- ・今日の会議では「1. 健康産業の創造」を中心に据える。

□委員

- ・道内の自治体を色々みているが、人口減少、産業の衰退など、札幌以外の市町村は大なり小なり抱えている課題は一緒である。伊達市には大学がないことが人口流出の原因という話もあったが、最近では大学がある町でも大変な状況にある。
- ・例えば東川町では写真を中心とした芸術文化政策が突出しているが、こうした分野に力を入れるべきではないか。伊達市に家を持って住んでみて、住環境、気候、食には満足しているが、週末に楽しめる芸術文化的なものがないと感じている。
- ・行政主導ではなく、市民がわくわくするものが見受けられないのが残念である。伊達のまちの魅力を醸し出していくのは市民力に根差した芸術文化施策ではないか。東川町は写真、富良野市は倉本聡、美唄は安田侃など、それぞれ幸運な町ではあるが、伊達も市民力に根差した文化政策が重要ではないか。

■座長

- ・心の健康という部分であり重要な要素だと思う。

□委員

- ・私もそこが重要だと考える。
- ・伊達家がここを興したという事実は伊達市の強みの一つだろう。縄文の歴史と伊達の歴史。この歴史の特異性は強みであり、伊達市の売りになる。
- ・心身の健康という時、心の拠り所がないと生きていけないわけで、それには芸術文化をクローズアップすることが重要ではないか。
- ・グローバルの対義語はローカル。郷土を愛する心をどう育てるか。
- ・多分、教育委員会を中心にやっていると思うが、地域を知る学習、芸術文化、教育がリンクし、網羅されたものが若い人に伊達市に対する郷土愛を育むことになり、伊達への愛着、住みたいというモチベーションにつながる。

■座長

- ・食は健康産業そのものであるが、食のアイデンティティをどこに求めるかといえば、歴史であり文化であろう。したがって、今の話は大切な視点だと考える。
- ・農業を雇用の場にとというのは健康産業で期待されているところだが、この点はどうか？

□委員

- ・新規就農したいと考えている人はいくつか候補地を選んで就農すると思われる。選択肢を探している人に対し、こちらから訴えかけられるような情報提供と発信をすることが、新規就農者を増やすことにつながるのではないか。
- ・農業で生活ができるかということが不安要素だが、冬野菜の取組み、イチゴの産地化など、いま伊達市で取り組んでいる内容や、もしできれば、「このぐらいの収益があがりますよ」という情報を伝えることができればと思う。
- ・自身も当初は何もデータがない状態から事業計画書を作れと言われ、苦労した。心配の方が大きかったので、少しでも不安を減らせるような提案・仕組みが作れればと思う。

□委員

- ・宿泊施設がないことが伊達市の弱みとなっているが、洞爺湖、登別温泉は伊達市の宿泊機能だと考えるべきではないか。つまり、伊達のことを伊達だけで考えるのではなく、広域的な視点が必要。あの洞爺湖・登別の観光客に、伊達の野菜を出せるかどうかを考えるべき。
- ・同様に、噴火湾をどう活用するかも検討すべきだろう。単に魚を獲るということだけではなく、フィッシングをはじめ、噴火湾をどう活用するか、来た人をどう楽しませるかということもキーワードになってくるのではないか。

□委員

- ・「健康産業の創造」「定住促進のための環境整備」「生涯現役社会の実現」の3つを満たしていく施策及び事業案を作ることが必要だろう。
- ・まず、健康産業が何を指すのか、コンセンサスが必要ではないか。
- ・「健康産業」については、「健康」と「産業」に分けて考えたらどうか。
- ・「健康」については、誰が健康になるのか、主語が重要。これに関しては、伊達市民が健康になるということが第一で、次に、伊達の食材を買った人、これには市民以外の人も含むが、それらの人が健康になるということだろう。
- ・「産業」については、農業なのか、加工業、飲食業、サービス業なのかという仕切りが必要ではないか。
- ・事務局案では、「健康産業」のうち、「(1)健康に寄与する産業の活性化」は、市外の人を対象で、「(2)健康をコンセプトとした循環型経済システムの構築」は市民を対象としたものと受け取れる。一番重きを置くべきなのは市民が健康であることだと思う。そのことが、2番目の定住促進、3番目の生涯現役社会の実現にもつながるのではないか。
- ・「生涯現役」はただ現役であれば良いということではなく、健康でいられることが重要で、それを伊達市としてPRする、外に向けてどう見せていくか、伊達市民にどう感じてもらうかという視点が必要だと思う。
- ・「伊達市に住むと健康になる」ということをどう市内外に見せていくか、目立たせていくかが重要。単品だけではだめで、組み合わせていく必要がある。「市民が健康である」ということをどう数字示せるか、難しいのであれば、健康関連事業への参加者の割合が増える、関連して観光的な要素であれば集客数が増えるといったとらえ方になるだろうか。
- ・健康という軸に、定住促進、生涯現役まで総合的に組み込んで行くことが必要で、それを外部に発信すると、より外から人から来るのではないか。

■座長

- ・市職員の話では、伊達市民は現実には不健康だという意見があった。だからこそ、もっと身体を動かすことを日常的にするか、野菜を中心とした食べ物を摂取するということが出てきたので、今の話もそういうプロセスや戦略が見えるようにしなければいけない。

□委員

- ・今までの話は、これまで散々議論されてきたと思う。それでも結局、人口は減ってきた。
- ・具体的に何をすれば良いのか、それを誰がやるのか？という具体的な議論をしたい。現実的に何をこの5年間でやっていくのかを考えたい。
- ・洞爺湖、登別との役割分担もそのとおりで、伊達だけの議論をしてもダメだろう。
- ・医療機関の存在も重要だと思う。

□委員

- ・今回の戦略部分の資料3は、庁内PTの議論を経たものか。

●事務局

- ・大項目は議論したものだが、施策展開イメージは仮置きである。

■座長

- ・市の中でも色々な議論をしてもらい、この場でも議論をしていきたい。

□委員

- ・これからのスケジュールだと、次回は定住促進という話か。

■座長

- ・順番からいくとそういう流れになるかと思う。
- ・フィードバックはお互いにし、議論していかないと意味がない。

□委員

- ・施策はこの資料のように、ぼんやりしたものになるのか？

■座長

- ・現資料は仮置きのものであり、最終的な施策はより具体的なものとなろう。結局、5年間で具体的に何をやるのか？どう動くのか？という、アクションプランに近いものを作りたい。

□委員

- ・伊達で生まれ、弘前で学生・就職して戻ってきた。
- ・今まで伊達というまちをそれほどすごいまちという印象を持っていなかったが、改めてこのまちのすごさがわかった気がする。

■座長

- ・高校生にそういう教育をしていけば郷土愛等も出て来るのではないかと思う。

□委員

- ・「困っていないから意見が出ない」というのがこの世代。自分も含め、団塊ジュニアは受け身であり、能動的に動かない。
- ・受け身であることを前提として、健康産業、定住促進、生涯現役に関する基本認識と相互のつながり、流れがわかるような取組が必要ではないか。

□委員

- ・東京の人間は、北海道ならばどこでも健康になれると思っている。そういう意味では、環境も良く、文化的なものも多い札幌が一番だと思う。どこでも健康になれると思われている中では、突出した何かを示さなければならず、突出した健康産業を打ち出すべき。
- ・東川町のWEBサイトを見ると、「上水道普及率0%」という情報が出る。皮肉っぽいメッセージだが、これは、「大雪山の水が流れているぞ」ということアピールしているのであり、「東川には札幌では味わえないものがある」ということを強調している。おそらく智恵を絞ってアピールしようとした結果だろうと思うが、こういう煮詰まった議論をしないといけない。
- ・これだけポテンシャルがある伊達市だけに、漠然とした答申にするのでは勿体ない。この会議から重要な提案、わくわくするものがほしい。

4. その他

●事務局

- ・今回、ご議論いただいた内容に、庁内PTの議論も踏まえて次回整理したい。
- ・個別にも意見対応したいのでご連絡いただきたい。

■座長

- ・今回の会議で、少し戦略の輪郭がわかってきたように思う。引き続き次回に議論したい。

5. 閉会